

明治新聞雑誌文庫 ニューズレター

第七號(移轉特集號)
令和二年五月二十二日(金)
編集・発行
東京大學大学院法學政治學研究科
附屬近代日本法政史料センター
明治新聞雑誌文庫
〒113-0033
東京都文京区本郷七 3-1-1
電話 〇三-五八四-1327

年二回発行

URL
<http://www.meiji.j.u-tokyo.ac.jp/>
Mail
lmeiji@j.u-tokyo.ac.jp
Twitter
@UTokyo_LMeiji

創設以来初の全資料移転

全退避作業、無事完了



耐震改修工事に備えた新聞、雑誌、マイクروفイルムほか明治新聞雑誌文庫の全所蔵資料の退避移転作業が、三月三十一日に無事完了しました。

昭和四年に当文庫が史料編纂所地階に設置されて以来、初の全面改修工事であり、すべての資料が書庫外へ出ることも初めてです。事務室も法学部三号館図書事務室へ一時的に移転しました。全ての書架から資料が運び出され、がらんとなった館内では、音や声が大きく反響しています。



外骨書函もお引越

館外へ運び出される資料の数々

当文庫初代主任の宮武外骨が「明治新聞雑誌文庫の事業は予終生の使命」として蒐集・整理に精魂を尽くし、その志を受け継いだ代々の職員の手によって補完されてきた資料たちは、箱に納められ、来夏の再開館(予定)まで静かに眠っています。移転作業にあたり惜しみないご助力をくださった先生方、学生スタッフ、作業を担当された企業の方、寄付者の皆さまほか学内外の多くの方々には深く御礼申し上げます。

次の百年に向かって



▲明治新聞雑誌文庫玄関前(鉄扉と銅看板)

関東大震災後に建設された当文庫は、耐震・耐火のための当時の最新技術が詰まっています。今回の耐震改修では、現代の最新技術を生かし、次の百年に向かって資料を守り続ける設備を計画しています。

長期休館直前となった昨年十二月は、各国、各地からの利用者で連日閲覧室が満席となりました。マイクروفイルムの閲覧席がすべて埋まり、複数の方にお待ちいただくこともありました。

当文庫の資料を必要とされる皆さまには長期休館によりご不便をおかけすることをお詫び申し上げます。今後も貴重な資料を保存し、いける環境づくりを行い、多くの皆さまに資料をご利用いただ

コラム 戦禍から資料を守る

外骨は資料を紛失や欠損から守り確実に後世に残すため、明治文庫資料を「門外不出」とし、文庫外に出すことを簡単には許しませんでした。『外骨戦中日記』(吉野孝雄著)によると、戦時中に資料疎開の話が出て、なかなか納得しなかったようです。

しかしながら周囲の説得により一部資料の疎開が決定し、資料蒐集で懇意な人物が住む福島県など、数力所に分けて疎開させたそうです。戦後、資料が文庫に運び戻される際に外骨は立ち会いました。

場所によっては疎開先までも戦災に遭った時代、資料の帰還は大変幸運なことだったのではないのでしょうか。



▲空になった創設当時の書架

るように頑張って参ります。

創建時より少し姿を変えますが、明治文庫の新時代に期待ください。再開館後、皆さまとお会いできるのを楽しみにしております。



▲外骨と
瀬木博尚氏
の肖像

連携・協力・寄贈で広がる明治文庫

「最貴重」の新聞紙ほか 新規オンライン公開始まる

二〇一八年から公開中の「宮武外骨蒐集資料」(東京大学デジタルアーカイブズ構築事業)に、この三月、新たな資料が加わりました。公開時の反響は大きく、SNSでも多数の反応を呼びました。

新コレクション「東洋自由新聞」「改進黨新聞」「府藩県制史関係資料」は国際規格IIIFで公開され、商業利用も可能です。どこからでもアクセスでき、長期休館中もご利用いただけます。

今回、新聞の公開に際しては当文庫からの要望で、年月日からの検索(カレンダー形式)が実装されました。同じ日付を持つ資料が一目で

休館中も使えます

学内外からアクセス可能です



宮武外骨蒐集資料

<https://iiif.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/repo/s/gaikotsu/page/home>

東京大学学術資産等アーカイブズポータル

<https://da.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/portal/>

邦字新聞デジタル・コレクション

(スタンフォード大学フーヴァー研究所)

<https://hojishinbun.hoover.org/?l=ja>



わかるため、今後のデータ拡充により同時期の他新聞との記事比較等への活用が期待されます。

東京大学学術資産等アーカイブズポータルからも検索できます。学内のデジタル化された学術資産と合わせて検索することが可能です。



▲日本初の試みとされる
彩色新聞(『改進黨新聞』)

コレクションの一つ『東洋自由新聞』は、明治十四年創刊、西園寺公望を社長に迎え、主筆を中江兆民(篤介)が務めた日本初の急進的自由主義新聞です。政府側の干渉からわずか三十四号で廃刊した希少なこの新聞の入手を熱望していた宮武外骨は、昭和六年に見事欠けのない一揃いを入手し、当文庫所蔵に加えました。入手後に製本されたと思われるこの新聞の見返しには「明治文庫に於ける最貴重新聞紙」と記されています。



▲『東洋自由新聞』
(製本) 見返し

東京大学

ホームカミングデー講演会

東京大学ホームカミングデー(二〇一九年十月十九日(土))において、講演会「近代政治史研究の原点―岡義武の明治・大正史をよむ」(講師：五百旗頭薫(本学法学部教授)、伏見岳人(東北大学教授)、前田亮介(北海道大学准教授) 司会：苅部直(本学法学部教授))が開催されました。

当文庫の運営に携わり、所蔵資料も深く研究された故岡義武教授の著書『明治政治史』『転換期の大正』の新版(岩波文庫)が刊行されたことにちなんで、その仕事の意義について討論されました。執筆時の肉筆資料もスライドで紹介され、白熱・充実した講演会には多くの若手の研究者や学生の姿もみられました。



▲会場に当文庫
紹介パネルを設置

貴重な資料の欠号寄贈

『公論新報』二二〇号(明治二十一年八月二十一日)を寄贈いただきました。この新聞は自由民権を主張する政論新聞で、星亨が中心となって発行したものです。国会図書館にも所蔵がなく、大変貴重な資料です。



▲寄贈資料(部分)
『公論新報』220号

ご案内

長期休館に伴い、ご迷惑をおかけしております。休館中のサービスや今後の予定などはWebサイトにてご案内しています。



http://www.meiji.j.u-tokyo.ac.jp/important_announcement_Seismic_Reinforcement_Work.html



▲館内で資料を
撮影するスタッフ

資料撮影協力

BSフジ「ガリレオX」(二〇二〇年一月十二日)放送の館内での資料撮影が行われました。